

### 平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

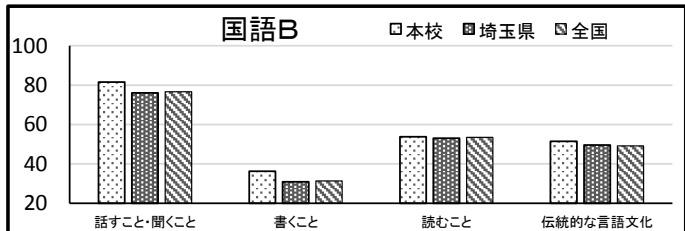
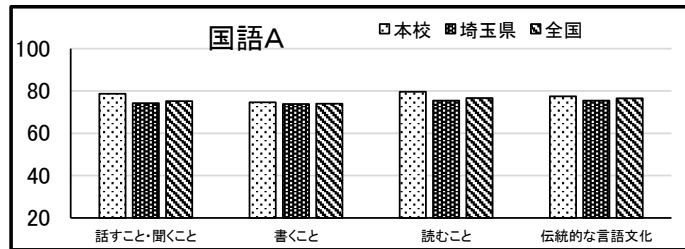
この学力調査は、平成30年4月17日に中学校3年生を対象に実施したものです。また、本分析・考察は全国（公立）及び県（公立）平均との比較をベースにしたものであり、一定の基準をもとにした優劣や、昨年度と比べた経年変化を表すものではありません。

#### 1 国語の課題と解決に向けての方策について

A問題・B問題のすべての項目で県・全国平均を上回りました。以前より課題であった書くことについて、対策を立てて取り組んできた結果、今回の成績につながったと考えます。活用に関するB問題では書くことの正答率が特に低いことが分かりました。引き続き効果のあった取り組みを継続し、更に国語力をつけるための取り組みを行っていきます。

- ①言語環境の整備（朝読書の実施、学級文庫の充実、学校図書館整備）（継続）
- ②単元ごとの作文指導の導入（鑑賞文、登場人物への手紙、紹介文、意見文、テーマ作文）（継続）
- ③定期テストでの記述式の問題の設定。
- ④授業での話し合い活動の充実。

正答率のグラフ

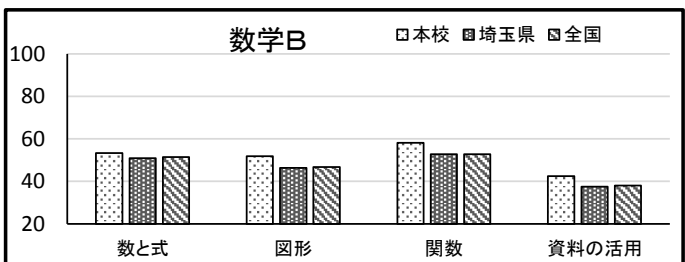
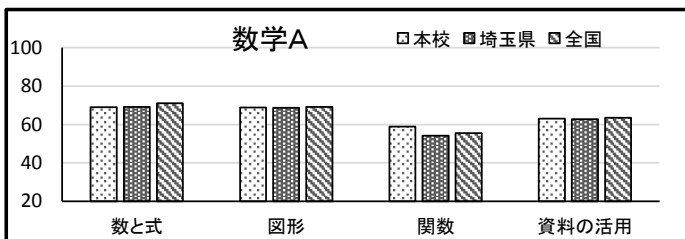


#### 2 数学の課題と解決に向けての方策について

数学の基礎的な知識を活用する力を問うB問題については、すべての項目で正答率が全国・県を上回っていました。与えられた情報から必要な情報を選択して、的確に処理することができるようになり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈できるようになってきたりしたと考えられます。しかし、B問題での正答率が低いこと、A問題の数と式の結果が低いことから、基礎的な知識・技能の定着に課題があることがわかりました。そこで、引き続き、基礎的・基本的な知識・技能を身につけていくために、以下の取り組みを行っていきます。

- ①計算力や解き方を定着させるための演習問題の充実（定期テストでの復習問題の出題）。
- ②数量やその変化を正の数と負の数を用いて表現する活動や立式する活動の重視。
- ③応用問題の解法をグループで考えさせ、代表生徒が発表する授業展開の工夫。

正答率のグラフ



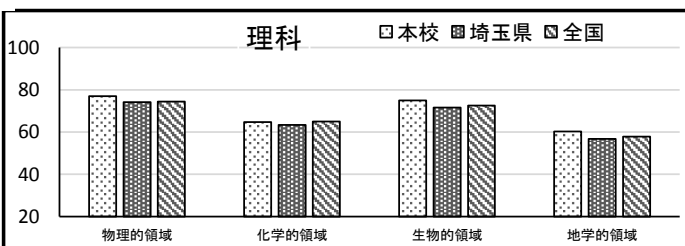
#### 3 理科の課題と解決に向けての方策について

本校と県や全国の正答率を比較してみると全ての領域において、県や全国を上回っていることがわかります。領域ごとの比較においては物理的・生物的領域における知識・技能はあるが、化学的・地学的領域の知識・技能の定着はまだ乏しいということがわかりました。

このことから、化学的・地学的領域の定着をはかるため、以下の取り組みを行っていきます。

- ①学習意欲を高めるために、生活に密着した内容の実験を行う。

正答率のグラフ



- ②目に見えない事象の理解を深めるため、コンピュータ、電子黒板、模型を活用する。